

阿波おどり 台湾元気づけ

大阪のグループ 35人被災地訪問 友好深め

大阪を拠点に活動する阿波おどりのグループが、地震や台風で甚大な被害を受けた台湾東部の花蓮県を訪れ、公演を行った。被災地の早期復興を祈念して踊りやパレードを披露したほか、現地・先住民の民俗舞

踊のパフォーマンスもあり、日本と台湾の伝統文化の交流で友好親善の絆を深めた。公演は、戦前の日本統治時代に徳島県から多くの入植者が移り住み、徳島市と友好交流協定を結ぶ花蓮県



台湾・花蓮県吉安郷で行われた復興支援公演(南大阪連提供)

吉安郷と徳島日台親善協会の協議で決定。県出身者らでつくる南大阪連を中心に関西阿波おどりの協会所属の四つの連の計35人が訪れた。

南大阪連の安東圭介連長(56)によると、沿道で大勢の人々が埋める中、一行は約2キロにわたって流し踊りをしながらパレード。写真撮影を求められたり、「楽しみ」「頑張ってる」と日本語で声をかけられたりと熱烈的な歓迎を受けたという。

特設ステージで、安東連長が游淑貞郷長に対し、昨年4月の地震被害の義援金を手渡すと、感謝状が贈られた。その後、メンバーは躍動感あふれる男踊りやしなやかでかんな女踊りなどを披露、訪れた数千人の観客からは、万雷の拍手がわき起こったという。

阿波おどりを初めて見たという陳羿華・吉安郷勝安村長は安東連長に「楽しく元気になれた。素晴らしい日本の伝統文化で、ぜひまた来てほしい」と話したという。